



学校だより

はくれい

白山市立
白嶺小中学校
第7号
令和4年7月13日



白山手取川ジオ学習 瀬波川の美しさや冷たさを体感！

小学生のジオ学習、瀬波川・川遊びが6月30日に行われました。例年より早い梅雨明けとなり天候にも恵まれました。今年はゲストティーチャーとして、白山ろく少年自然の家で自然体験の指導をされている尾張さんと、白山手取川ジオパーク学習支援員の夏至さんに現地に来ていただきました。子どもたちは、瀬波川の深みに飛び込んだり川の生物を観察したりして、思いきり自然を楽しみ、歓声をあげていました。



- * ぷかぷか浮く練習をしました。たくさんやればやるほどコツがわかってきました。コツは力をぬいて浮くということです。ゆっくり力をぬいて浮いてみると、小花さんと七色さんに「すごいね。」と言われてうれしかったです。足の近くに石があったのでその石の上に立ってあがっていきました。寒くなってきたので太陽の光にあたってひなたぼっこをしました。(小3)
- * 最初にかつ先生とげっしー先生に川遊びのルールや川の生き物について教えてもらいました。瀬波川は日本でもとてもすごい川と知りました。ルールの「走らない・飛ばない・石を投げない」をしっかり守って川遊びを楽しみました。次に飛び込みをしました。最初はとっても冷たかったけどだんだん慣れました。そしてついに飛び込みです。前の人がかかると飛び込んでいって、自分の番となると緊張したけど一回飛び込むと楽しくなってどんどん飛び込みました。(小6)
- * 夏至先生は、瀬波川にいる3種類の魚を教えてくださいました。1種類目は「山女」、2種類目は「イワナ」3種類目は「ゴリ」でした。教室では、赤は先に川の中の生物探し、白は飛び込みをすると決めていて、私は赤だったので夏至先生に教わりながら川の中の生物を探しました。おたまじゃくしやカエル、とても小さなカニ等たくさんの生物がいてとても面白かったです。(小6)

表彰披露

◎白山市民スポーツ大会(陸上競技) 6/12

男子の部・中学生 1500m 第2位 山本 銀人

◎令和4年度白山市少年の主張大会 7/2

優秀賞 飛田 阜羽(3年)『殺処分を減らすために今できること』

⇒少年の主張石川中央地区大会に出場(8/6)

ふりカエル



約 350 年前から伝わる「でくの舞」を鑑賞

8日、校区の東二口に伝わる「東二口文弥人形浄瑠璃・でくの舞」（国指定重要無形民俗文化財）を小中にわかれ、全校で鑑賞しました。保存会の皆さんには、現在演じられている5演目の中から「大職冠」を演じていただきました。子どもたちは集中して、真剣に見入っていました。人形を手にとって重さを実感し、人形を操りながら足拍子をするという巧みな技術に感心していました。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。



- * でくまわしは 300 年以上も続いているのに、今は人数が少なくなっていると聞いて驚きました。これからも日本の重要な文化財としてずっと残っていくといいと思いました。今日地域の人からよい体験をさせていただくことができよかったです。（中3）
- * 今日、初めて東二口の「でくの舞」を見ました。人と人形が一体となっていて本当に動いているかのように表現されていてとてもすごいなと思いました。東二口の人口が減っている中で伝統が受け継がれているのは、その地域の人たちの思いが一つになっているんだなと感じました。足音や声の大きさに迫力があって、見ている側が引き込まれていくように感じました。（中3）
- * 私は久しぶりに見て、昔の文化に心から浸ることができました。木の棒でできている人形をあんなにもうまく動かせるのはすごいなと思いました。まるで生きているかのような感じがしました。足踏みなども威圧感があり、緊迫感があってとても興奮しました。300 年以上ものあいだ受け継がれてきた「でくまわし」は後世に伝えていってほしいなと思いました。（中3）
- * 見た後に人形を実際に持ってみると想像より重くて、持って足踏みしながら操るのはとても難しいのだろうと感じました。しかし、人手が少なく存続の危機にあることを知り、この「でくの舞」をもっと多くの人に知ってほしいし、なくならないことを願っています。（中3）

ふりカエル

